

大隅地域 地域振興の取組方針（案）

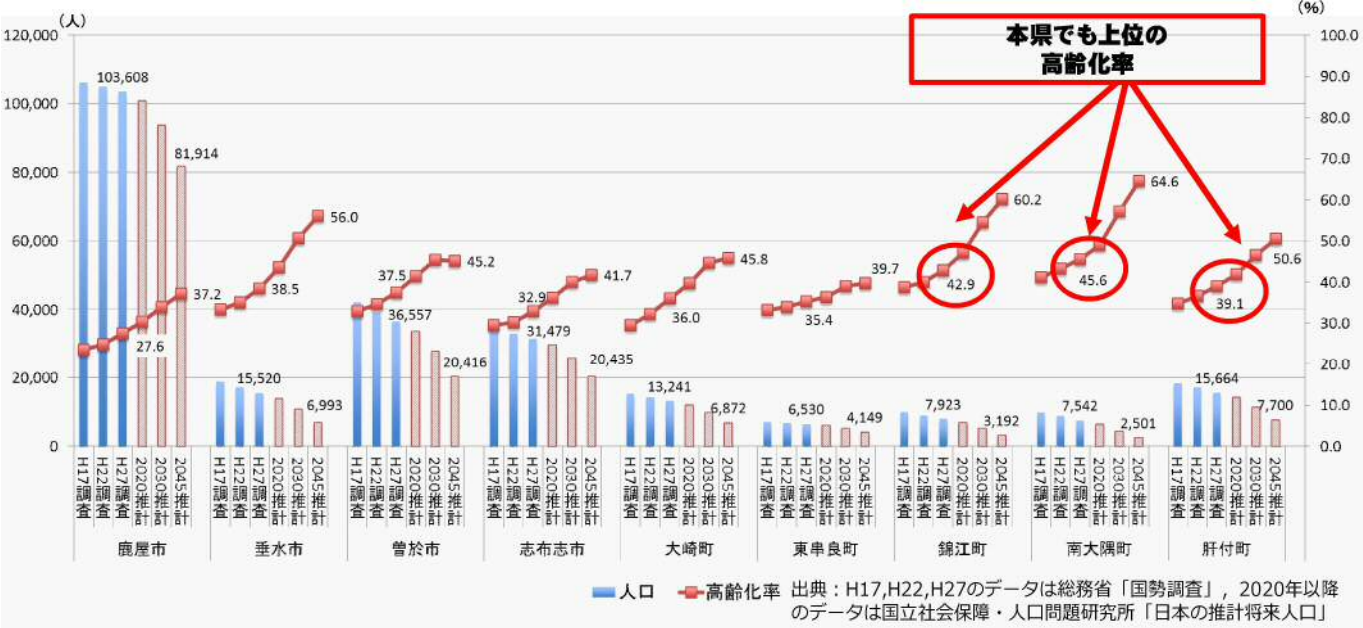
第 1 章 時代の潮流と大隅地域の現状・課題

1 社会構造

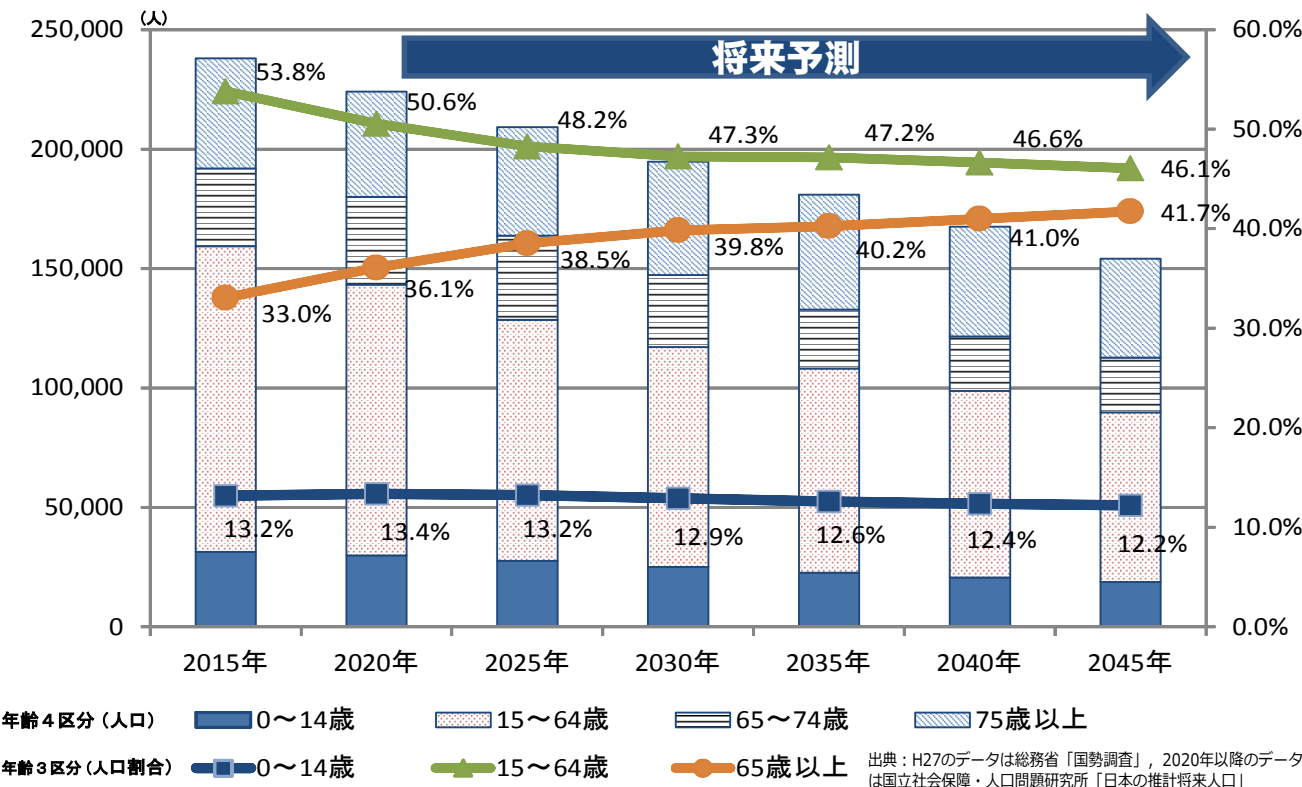
大隅地域は、本県でも上位の高齢化率の地方自治体が存在しており、今後も、人口減少や少子高齢化の著しい進行が予想されます。

このような中で、地方自治体が安定して、持続可能な住民サービスを提供し続けるためには、人口減少時代にマッチした新たな施策の展開を考えることが必要となります。

グラフ 1 管内市町の人口推移と人口予測



グラフ 2 大隅地域振興局管内の年齢 4 区分別の人口と年齢 3 区分別の人口割合

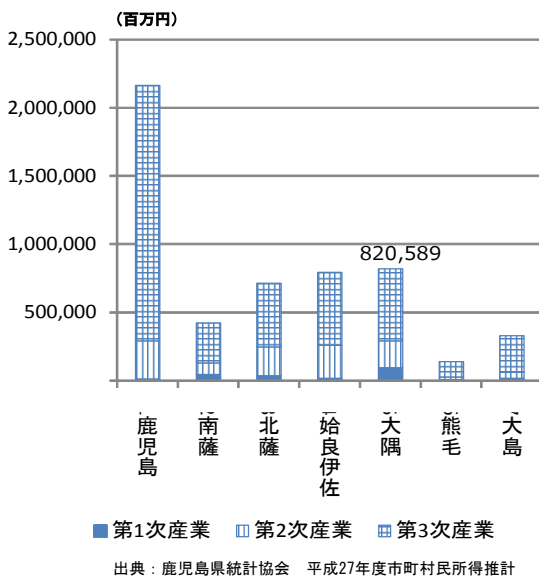


2 産業

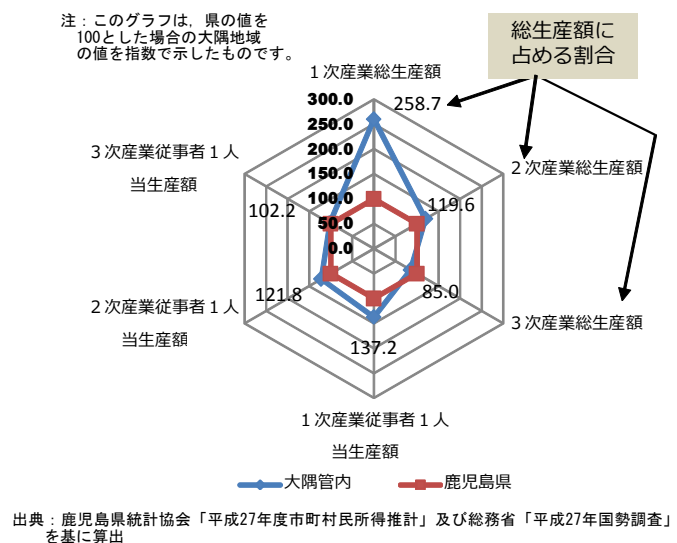
(1) 総評

- 「平成27年度市町村民所得推計」によると、大隅地域の総生産額は、鹿児島地域に次いで2位（8,206億円）となっており、産業構造は他の地域と比較して第1次産業に傾斜しています。
- 特定品目や特定産業への傾斜は、取引先が限定されたり、国際環境の激変（政変、為替リスク）や家畜・養殖魚などの病気により大きな痛手を被る可能性が大きいと考えられるため、地域の産業は「多様性」があり、環境変動に左右されにくい産業構造への転換が課題であると考えられます。

グラフ3 地域ごと産業別総生産額比較



グラフ4 各産業ごとの生産額比較



(2) 第1次産業

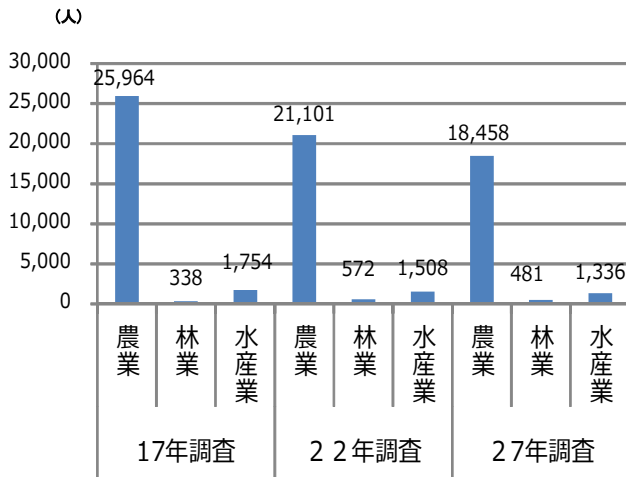
- 全従事者に占める、農業、林業、水産業それぞれの産業に携わる従事者数の割合は県水準よりも高いですが、いずれの産業も従事者数が減少傾向にあり、担い手確保が課題となっています。
- 耕作放棄地率は県全体より低いものの、少子化、高齢化、従事者数の減少等により、耕作放棄地の利活用、農地利用が課題となっています。また、林業では林地の集約化と再造林※¹率の向上が課題となっています。今後は、上記の課題以外にも、農林水産業のI・O・T※²化、AI※³の活用、省力化、作業軽減化、有利販売に向けての販路開拓、マーケティング能力の向上などが課題となっています。

※1…再造林：人工的に育成した森林を伐採した跡地に再び造林すること。

※2…I・O・T：モノのインターネット。コンピュータやスマートフォンなどの情報通信機器に限らず、全ての「モノ」がインターネットにつながる。Internet of Things の略

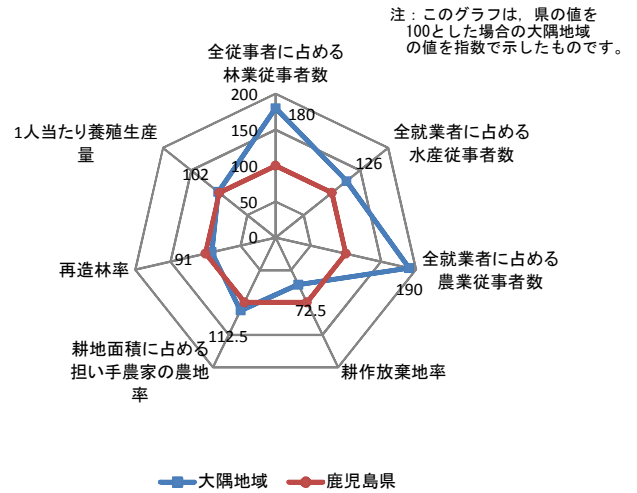
※3…AI：人工知能。知的な機械、特に、知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術

グラフ5 管内1次産業従事者数推移



出典：総務省統計局 H17調査,H22調査,H27調査の「国勢調査」

グラフ6 管内1次産業の状況



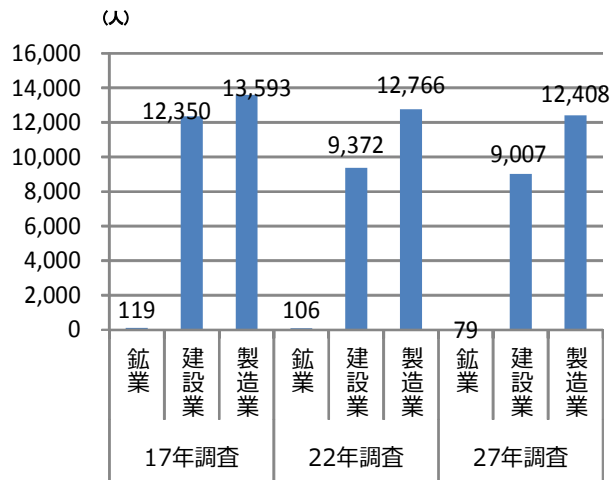
出典：総務省「平成27年国勢調査」、県環境林務部調べ(H28年度)、2013漁業センサス、2015農林業センサス、農林水産省「作物統計調査(H29年度)」、農林水産統計(H28年)、県水産技術開発センター調べ(H30.3現在)

(3) 第2次産業

製造品出荷額等は、第1次産業に関連する「飲料・たばこ・飼料製造業」、「食料品製造業」が上位を占め、次いで「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が続いています。

- ・ 温泉水や地元農畜産物、水産物、シラスなどの地域資源を活用した内発型の企業が新事業分野への展開を図っている一方、志布志港からの、より付加価値の高い農産加工品、水産加工品、製材品などの輸出量を増加させることが課題となっています。

グラフ7 管内2次産業従事者数推移



出典：総務省統計局 H17調査, H22調査, H27調査の国勢調査

表1 大隅管内と鹿児島県の製造品出荷額等上位5業種

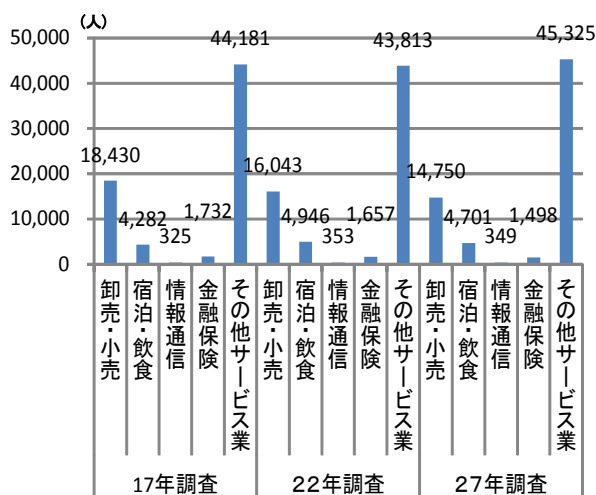
	大隅地域		鹿児島県	
	業種	出荷額(億円)	業種	出荷額(億円)
1	飲料・たばこ・飼料製造業	2,212	食料品製造業	6,612
2	食料品製造業	1,848	飲料・たばこ・飼料製造業	4,480
3	電子部品・デバイス・電子回路製造業	512	電子部品・デバイス・電子回路製造業	2,302
4	窯業・土石製品製造業	73	窯業・土石製品製造業	1,519
5	電気機械器具製造業	44	電気機械器具製造業	554

出典：総務省・経済産業省「平成28年経済センサス・活動調査結果」
ただし、「大隅地域」、「鹿児島県」ともに、「X」として非公表とされた市町村の調査結果は、除外してある。

(4) 第3次産業

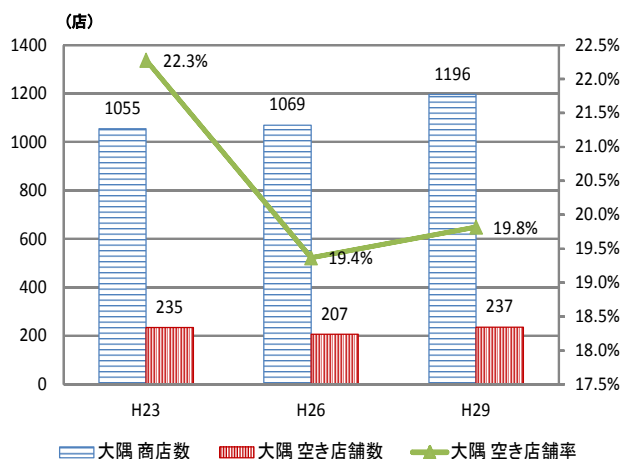
- ・ 商店数は増加傾向にあります，一定数の空き店舗が存在し，その数も近年は増加傾向にあります。今後は，新規創業者への場の提供，空き店舗の利活用が課題となっています。
- ・ 観光分野では，スポーツ合宿の受入れは県内でも高いシェアですが，一方で，宿泊インフラや二次交通に乏しく，入り込み客，宿泊客数が他地域と比較して少ない状況にあります。

グラフ8 管内3次産業従事者数推移



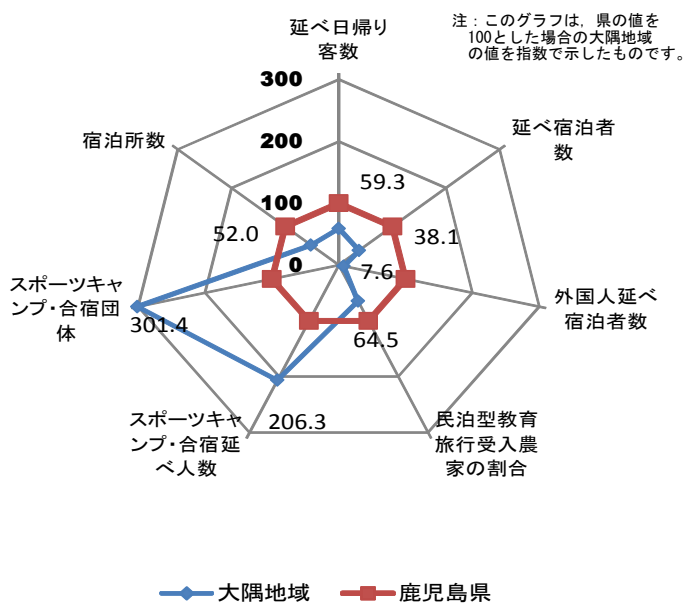
出典：総務省統計局 H17調査，H22調査，H27調査の国勢調査

グラフ9 管内商店数・空き店舗数等の状況



出典：県商工労働水産部調べ

グラフ10 管内観光の状況



出典：県PR・観光戦略部「H28年度鹿児島県観光統計」・「H28年度スポーツキャンプ・合宿状況調査」
2015農林センサス，県農政部調べ（H29.4現在），県大隅地域振興局総務企画部調べ（H28.12末現在）

3 保健・医療・福祉

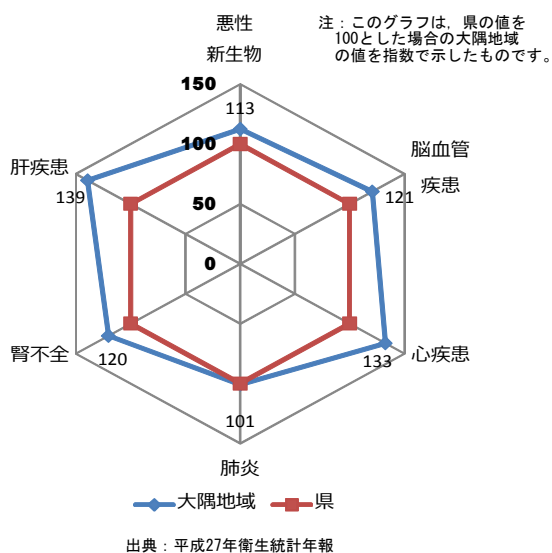
主要疾患死亡率については、代謝系、脳神経系、呼吸器系の全てにおいて県平均を上回っています。

また、人口10万人当たりの医師数が県平均を100とした場合の値が60と大きく下回っており、特に産科、小児科など特定の診療科でその他の診療科との格差が大きく、医師不足が深刻となっています。

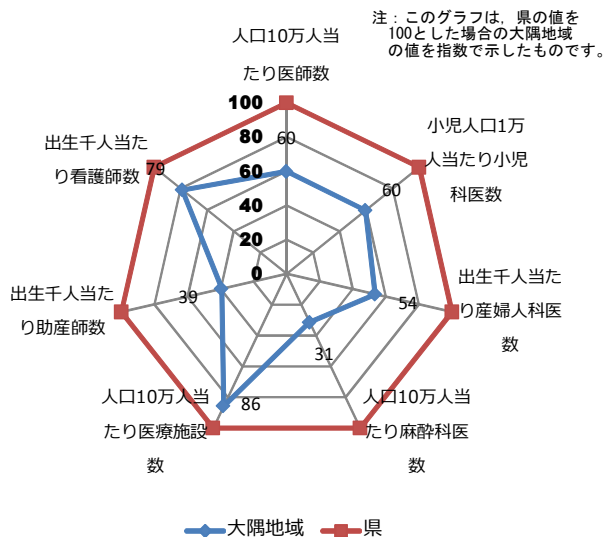
少子高齢化により疾病構造が変化し、医療・介護の需要が増大する中で、地域の医療機能の分化・連携の推進と、医療・介護連携の強化が課題となっています。

高齢化の進行、特に独居高齢者の増加による健康不安の増大や、孤立化の不安が増加する中で、生涯を通じた健康づくりの促進、高齢者の社会参加の促進が課題となっています。

グラフ11 管内の主要疾患死亡率



グラフ12 管内の医療体制状況



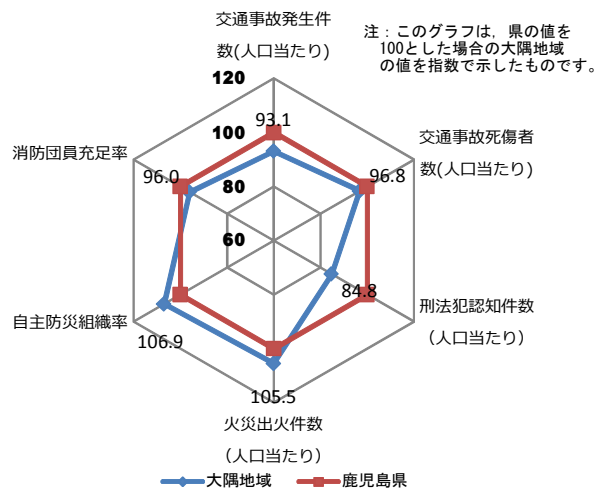
4 安全・安心

県全体と比較すると、人口当たりの「交通事故発生件数」、「交通事故死傷者」、「刑法犯認知件数」の水準は低い一方で、人口当たりの「火災出火件数」が高い状況にあり、地域住民の防災意識の啓発と避難施設の整備など防災対策の強化が課題となっています。

また、「一人暮らし高齢者世帯比率」、「集落人口に占める高齢者（65歳以上）人口が50%以上の集落の割合」が県全体の水準より高いため、行政、自治会、ボランティア、NPO、企業など多様な主体が地域づくりの担い手となり、それぞれが連携・協力し、支え合うことで地域に必要なサービスを提供するといった「共生・協働※¹による活力ある地域社会づくり」が課題となっています。

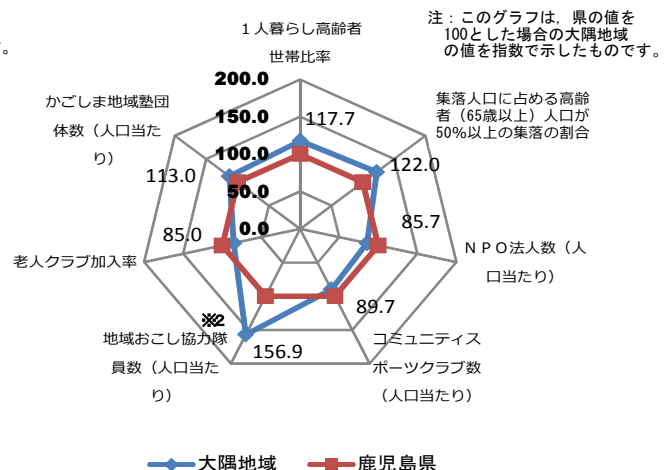
※ 1…共生・協働：多様な主体が、相互に特性や役割を認識し、尊重しあいながら、対等な立場で、共通の目的を達成するために協力すること。

グラフ13 管内の生活の安全状況



出典：県県民生活局「平成29年交通事故統計分析表」、
県警本部「平成29年中市区町村別の犯罪発生実態」、
平成28年「消防年報」、県危機管理庁調べ（H28. 4. 1現在）

グラフ14 管内の地域コミュニティ※1の状況



出典：平成27年国勢調査結果（総務省統計局）、
平成27年度過疎地域等条件不利地域における集落の現状把握調査（国土交通省）、
県県民生活局調べ（NPO法人数：H29. 11. 30現在、かごしま地域塾団体数：H30. 2. 1現在）、
県企画部調べ（H29. 12. 31現在）、県くらし保健福祉部調べ（H30. 3. 31現在）

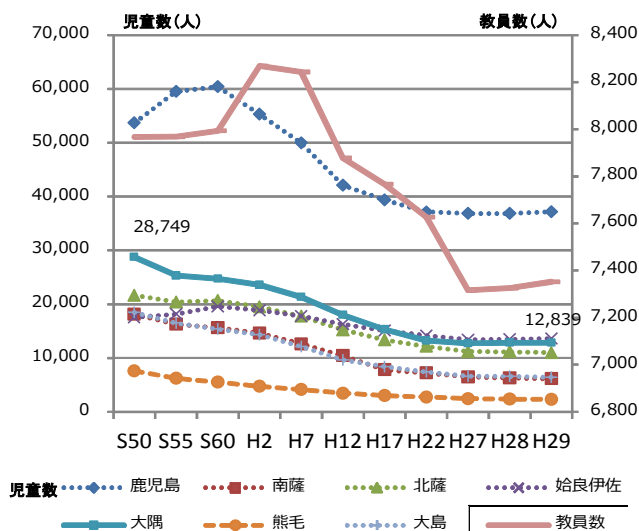
5 教育・文化

少子化により、児童・生徒数が減少傾向にあります。そのため、学校の小規模化が進み、児童・生徒の集団活動の実施や社会性の育成が困難となる状況が発生しているほか、校舎が更新時期を迎えるなどといった課題も生じています。また、廃校に伴い、多くの校舎が残存しており、その利活用が課題となっています。

社会教育、文化・スポーツ、コミュニティ等の施設整備は進んでいますが、更なる利用促進が課題となっています。

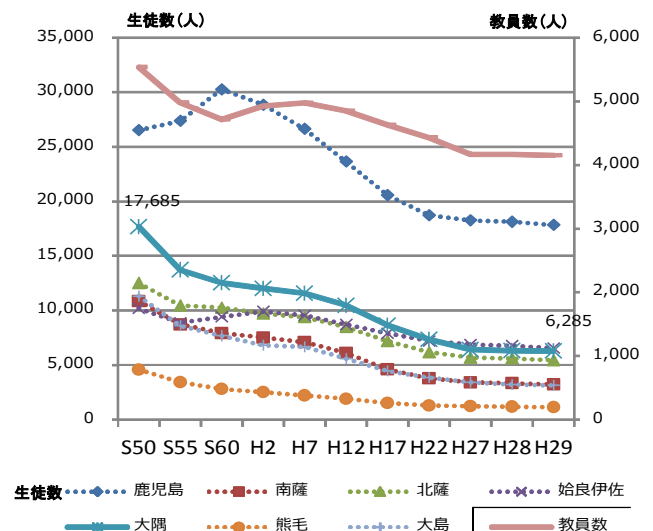
また、多くの貴重な文化財や伝統文化が残存していますが、後継者がおらず継承困難な伝統文化があることも課題となっています。

グラフ15 地域別公立小学校児童数・教員数(県全体)の推移



出典：県教育委員会「平成29年度教育行政基礎資料」

グラフ16 地域別公立中学校生徒数・教員数(県全体)の推移

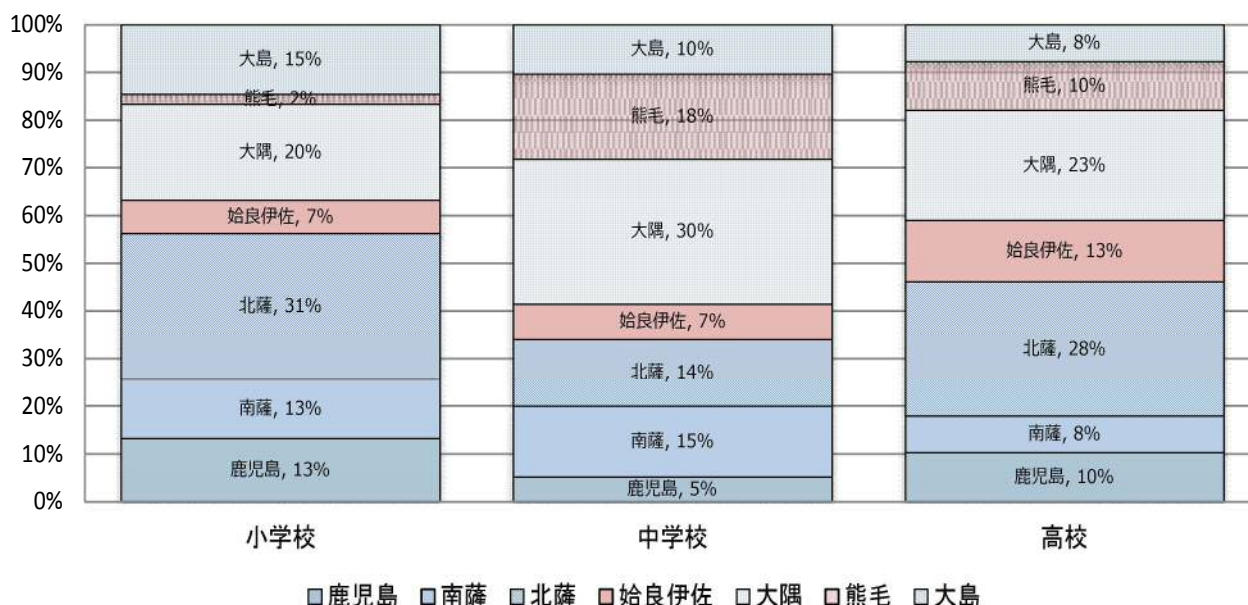


出典：県教育委員会「平成29年度教育行政基礎資料」

※1…地域コミュニティ：地域住民が生活している場所、すなわち消費、生産、労働、教育、衛生・医療、遊び、スポーツ、芸能、祭りに関わり合いながら、住民相互の交流が行われている地域社会、あるいはそのような住民の集団

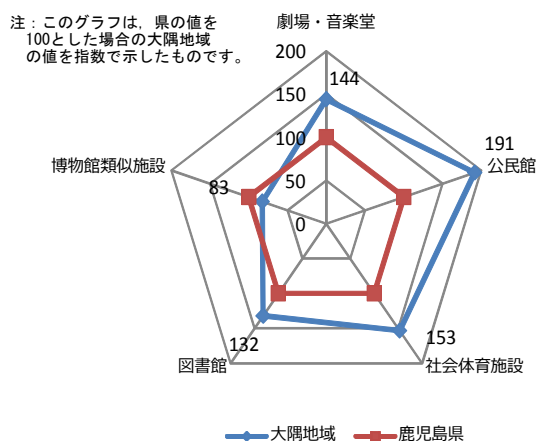
※2…地域おこし協力隊：都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を、地方自治体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組

グラフ17 県全体の廃校数に占める各地域別の廃校数の割合 (S51～H30)



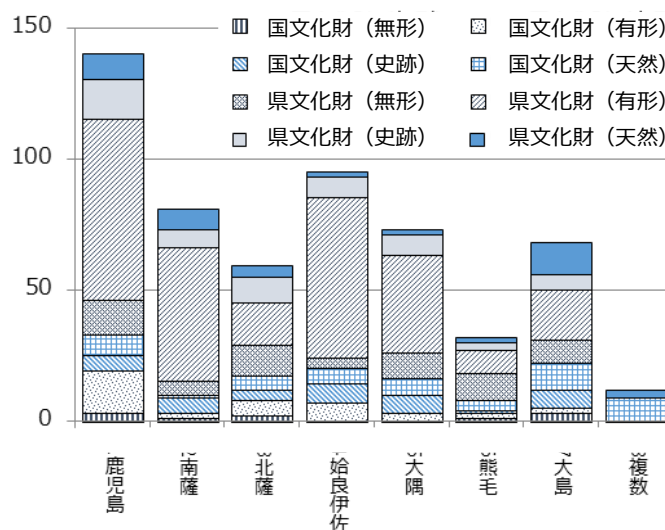
出典：県教育委員会「平成29年度教育行政基礎資料」

グラフ18 人口10万人当たりの社会教育施設数 (H30)



出典：県教育委員会調べ（平成30年度）

グラフ19 地域別文化財数



出典：県教育委員会調べ（平成29年度）

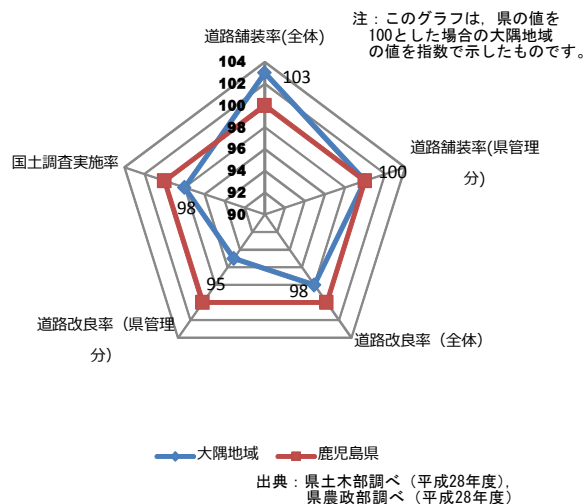
6 社会資本整備

県では、産業の発展に寄与し、地域の活性化を支援するため、国内でも有数の食料供給地である大隅地域の農林水産物の輸送に不可欠な主要道路網の整備と志布志港の整備を行っているところです。東九州自動車道、都城志布志道路や大隅縦貫道といった広域幹線交通網の整備と併せ、これら広域幹線交通網へのアクセスの強化、域内のネットワークを形成する道路及び国際バルク戦略港湾※¹としての志布志港の整備を引き続き進めることが課題です。

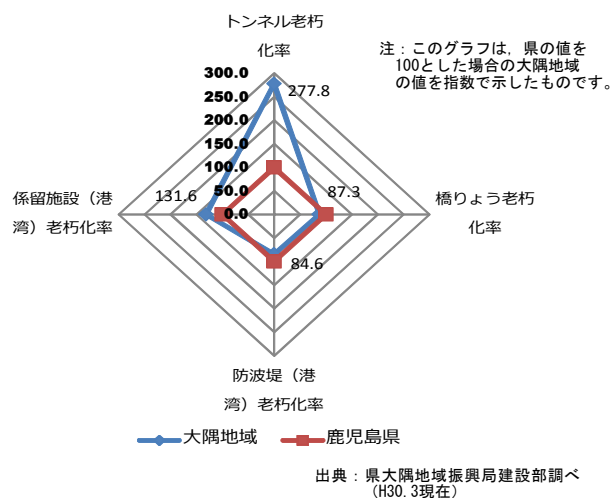
※¹…国際バルク戦略港湾：大型船舶による一括大量輸送を可能とする港湾の「選択」と「集中」により、バルク（ばら積み）貨物の安定的かつ安価な輸送を実現するための港湾

また、高度経済成長期等に整備された道路や港湾、橋りょうなどの社会資本の老朽化対策を進める必要があります。さらに、フェリー等を利用して大隅地域を訪れる観光客の利便性の向上を図るため、港湾施設や案内標識等の整備も必要となっています。

グラフ20 社会資本整備(管内道路整備状況)



グラフ21 社会資本整備(管内インフラ老朽化の状況)



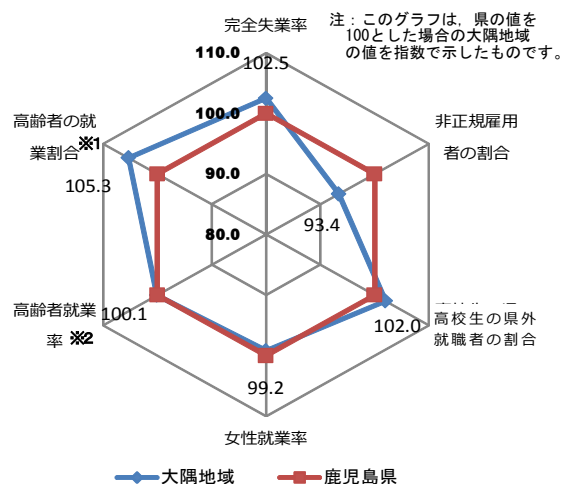
7 雇用

雇用については、全産業で従業者数が減少しており、担い手確保が課題となっています。大隅管内の雇用の特徴として、高齢者の就業率と高校生の県外就職率が高いことが挙げられます。

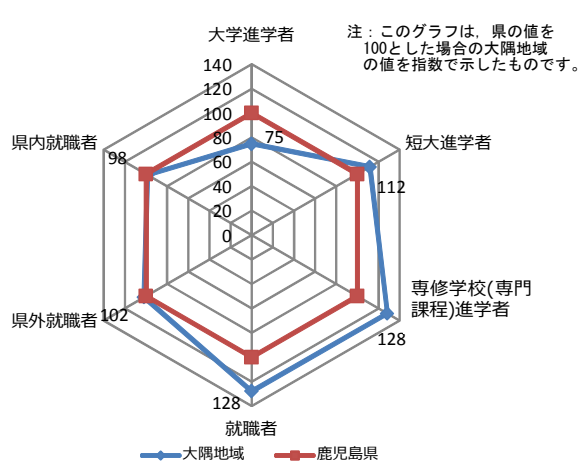
基幹産業である農林水産業や、関連する広範な地域産業に経済効果をもたらす観光産業を支えるためにも、担い手となる人材の確保・育成が課題です。

また、障がい者、高齢者及び女性の就業意欲や、多様化する就労ニーズなどに応じた雇用環境の整備並びに雇用機会の確保の促進と事業者の労務管理の向上が必要です。

グラフ22 雇用の状況



グラフ23 高校卒業者の進路状況(H29.3)



※1…65歳以上人口に占める就業者の割合

※2…65歳以上の労働力人口（就業者数と完全失業者を合わせたもの）に占める就業者の割合

8 「地域懇談会」及び「地域おこし協力隊と管内若者との意見交換会」での御意見

情報発信

- ・ 「食」、「豊かな自然」、といった地域の強みを発揮できていないことが課題
- ・ 「おおすみ」が知られていない。PR不足。PRが稚拙。来てもらおうと住みやすいと言ってもらえるので、うまく情報発信ができると底上げができるのではないかな。
- ・ 吾平山上陵や古墳などの豊かな歴史資源の掘り起こしやPRが必要
- ・ 県民が自ら発信する意識を持つような取組が必要

価値向上

- ・ 各産業分野のIoT化、AIの活用、省力化、作業軽減化、有利販売に向けての販路開拓、マーケティング能力の向上などが課題
- ・ 大隅産の農林水産物があまりにも知られておらず、都市部で体験を実施しているが、継続して消費につながる伝え方を検討する必要がある。
- ・ 大隅の発展につなげるため、鹿屋体育大学、海上自衛隊といった他の地域にない存在をもっと生かす必要がある。

人材の確保・育成・活用

- ・ 人手不足は、どの業種でも深刻な課題
- ・ 新規高卒者の県内就職の希望はあるが、県外への就職が多い。市町単独での職場体験では企業や職場も限られるため、大隅地域での広域的な職場体験など、子どもたちに大隅にある地元の職場を知ってもらう取組が必要
- ・ 都市部でのU・Iターン者への働きかけについては、人材の取り合いであり工夫が必要。給料だけでは来てもらえず、住む環境や休暇なども重要
- ・ 女性がもっと意見を言いやすい環境が必要。農業に携わる若手の女性を中心にした活動を始めているが、いろいろな人が立場を超えて他人事を自分事にしていくような風通しの良い仕組みができないかと考えている。
- ・ 地域の現状に気づき、人材を育成し、形にするには外部の人材の力を取り入れて学ぶ必要がある。
- ・ 子ども時代に自分達の住んでいる大隅半島の歴史や文化、森や海といった地域のことを知る取組があるとよい。

基盤整備・国際交流

- ・ 公共交通機関が少なく、保護者の送迎などが当たり前の時代で、子ども達同士で公共交通機関を利用して移動する機会が減っている。不便だけでなく、主体的な生活体験が不足する状況が課題であり、地域に合ったコミュニティバスでもよいので子ども達が主体的に行動できる環境があるとよい。
- ・ Wi-Fi環境や、語学のできる人、海外からの人を受け入れる心が必要

地域の魅力・暮らし

- ・ 高齢者が多いことをプラスに捉えられるのではないか。世話好きな人生経験の豊富な方がたくさんいるコミュニティを都会にないものとして魅力に感じる方が、いつもと違う田舎の良さを味わいたいと思って来られる。
- ・ 構え過ぎずに、無理のない範囲で元気な高齢者による民泊や体験など、工夫のある仕掛けができるのではないか。
- ・ 自分たちのことをよく知り伝え続けることが大事
- ・ 空き家を増やさない対策や空き家を使った地域の交流の場づくりなどの取組が必要である。

第2章 生かそう「おおすみポテンシャル」

1 知る人ぞ知る照葉樹林、海岸線などの景勝地と歴史資産

大隅地域の気候は、概して温暖多雨で、日照にも恵まれており、常緑広葉樹林※¹、亜熱帯性植物群等生物資源が豊富であるほか、原始的な照葉樹林等貴重な森林資源が保全されています。

また、佐多岬、くにの松原、悠久の森、猿ヶ城溪谷、神川大滝、雄川の滝等の豊かな自然環境、景勝地に恵まれており、広く分布する古墳群や戦争遺跡等の歴史的資産、お釈迦祭りや弥五郎どん祭り、やぶさめ祭り等の伝統行事といった数多くの文化的資産も有しています。

2 売りが形成できる農林水産品

大隅地域は、国内でも有数の畜産地帯であり、肉用牛、豚、ブロイラー等については、大規模な畜産経営が展開されています。

また、大規模畑地かんがい施設の整備が進められており、大規模法人による畑かんを活用した露地野菜の生産が展開されています。

水産業については、カンパチ、ブリ、ウナギ等の養殖業のほか、内之浦湾内での定置網漁業も盛んに行われています。

特用林産物※²については、主にシイタケ、エノキタケやシキミなどの枝物の生産が盛んに行われています。

3 森が育む豊富な水資源と水力発電

大隅地域は、比較的降水量に恵まれており、中・北部地域では、広大なシラス台地、丘陵が展開し、河川はシラス河川としての特性から流況が比較的安定しており、また、地下水も豊富で、河川流域の低地では多くみられる湧水が、生活用水をはじめ各種用水に利用されているほか、ミネラルウォーターとしての販売もなされています。

また、南部地域では、表流水を利用した水源施設による畑地かんがい※³整備が行われています。

さらに、安定的な発電が期待できる水力発電は、既存の水力発電所に加え、小水力発電の導入が進められています。

4 地域内循環する豊富な再生可能エネルギー

大隅地域は畜産業が盛んであり、総土地面積の約6割が森林であることから、家畜排せつ物や木質資源を活用したバイオマス発電や、その排熱を近隣の農業用ハウスや養殖施設、木材乾燥施設などに提供することで、農林水産業の振興に寄与することが期待さ

※¹…広葉樹林：ブナ、クヌギ、ナラ類、クスノキ、サクラなど、扁平で広い葉を持つ樹木で構成されている林

※²…特用林産物：たけのこ、しいたけ、枝物、木・竹炭、竹材など、森林原野において産出されてきた一般用材を除く林産物の総称

※³…畑地かんがい：畑での作物栽培に必要な農業用水を、パイプラインやスプリンクラーなどを使って、貯水池などから畑まで供給する仕組み

れています。

5 マイナスをプラスに変える地域の知恵

大隅地域では、廃校、空き家等を観光資源や地域の賑わいを創出するための資源として活用する取組や、廃棄物のリサイクルに関する取組など、一見、地域のマイナス面と捉えられがちな素材を地域の知恵や人材等を生かすことによって、地域のプラスの材料に変えていく活動が積極的に進められています。

6 さんふらわあによる関西との太いパイプ

鹿児島県の東の玄関口である「志布志港」と関西の大都市である大阪の「大阪南港」を結ぶフェリーさんふらわあは、昭和52年の就航以降、鹿児島の観光産業や農林水産業の振興に大きく寄与してきました。平成30年には、これまでの船に代わる新造船2隻が就航し、今後も両地域の更なる交流の発展が期待されています。

7 浸ろう「おおすみウェルネス」

本県は、「かごしま未来創造ビジョン」の中で「鹿児島のウェルネス」をキーワードとした施策展開を図ることとしており、これに関して大隅地域では、「浸ろう『おおすみウェルネス』』として4つのウェルネスを示し、施策展開を図ります。

以下の4つのウェルネスは、大隅地域に住んでいる全ての県民の方々が享受でき、大隅地域を訪れる旅行者やこれから大隅地域に住もうと考えている方々にも体験してもらうことができるものであり、その力が備わっている地域が「おおすみ」と考えます。

- (1) 緑豊かな大地で育った新鮮な食材をその場で満喫することができる「食のウェルネス」
 - ・ 大隅地域は、豊かな自然が育んだ、肉用牛、豚、カンパチ、ブリ、ピーマン、ばれいしょ等の農林水産物を生かした食の宝庫としての地域の特性を有しており、これらを常に新鮮な状態でおいしくいただける恵まれた食環境を「食のウェルネス」として表現しています。
- (2) 出会った人が声をかけてくれる、誰もが見守ってくれる心温まる「安心のウェルネス」
 - ・ 大隅地域には、子どもから高齢者まで、初めて会う人にも積極的に挨拶や声かけをするという心温まる気風がみられます。

また、子ども達や高齢者を見守る活動も各地域において様々な方法で行われており、そのような地域全体で住民等を支え、見守る地域の雰囲気「安心のウェルネス」として表現しています。
- (3) 体育大学、最先端のトレーニング施設、健康関連施設などが身近にある「スポーツ・健康・長寿のウェルネス」
 - ・ 鹿屋体育大学、2019年4月1日に大崎町にオープンするジャパンアスリー

トトレーニングセンター大隅や鹿屋市にある県民健康プラザ健康増進センターなど、大隅地域には、すばらしいトレーニング施設や健康増進施設があり、これらの施設や深い知見を生かした活動を「スポーツ・健康・長寿」につなげる取組を「スポーツ・健康・長寿のウェルネス」として表現しています。

(4) 深緑や青い海，静寂を五感で感じられる「自然・癒やし・観光のウェルネス」

- ・ おおすみのどこへ出掛けても，ごく簡単に，当たり前で深緑や青い海，静寂を五感で感じることができるという魅力を「自然・癒やし・観光のウェルネス」として表現しています。

第3章 「おおすみ」地域の取組方針

1 「おおすみ」の魅力を発信、知ってもらい、「おおすみ」の価値を高める

(1) ひとと「おおすみ」をつなげるきっかけづくり

- ・ 首都圏等における大隅の認知度向上を図るため、世間（メディア）に取り上げられるような話題づくりや工夫など、メディア目線を意識した情報発信を行うとともに、ICT※¹を最大限活用したPRを展開します。【P115Ⅸ①2(1)】
- ・ 関係団体との連携を図りながら、大隅の魅力を伝えるガイドや通訳案内士など観光を担う人材や組織の育成を図ります。【P119Ⅸ②3(2)】
- ・ 青少年の国際交流等を推進し、国際的な視野と先見性、コミュニケーション能力や豊かな感性を持った人材を育成します。【P47Ⅱ②1(2)】
- ・ 県外大学進学者等への県内企業の情報提供などにより、UIターン希望者の大隅地域内就職を促進します。【P48Ⅱ②2(2)】【P143Ⅺ②1(2)】

(2) 初心者からトップアスリートまで、スポーツを愛する人々が集い、高め、交わる「アスリートのふるさと おおすみ」づくり

- ・ ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅等の充実した施設を生かしたスポーツキャンプ等の誘致活動を推進し、スポーツを通じた交流人口※²の拡大を図ります。【P118Ⅸ②2(8)】
- ・ 大隅地域の住民の誰もが、それぞれの関心や適性に応じて、生涯にわたり「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しむことができる環境づくりに取り組み、ライフステージ等に応じたスポーツ活動を推進します。【P52Ⅱ④1(1)】
- ・ 国民体育大会をはじめ、各種の全国大会や国際大会において大隅地域の選手が上位入賞できるよう競技力の向上を図るとともに、競技生活が終わっても指導者として活躍できる環境づくりを図ります。【P52Ⅱ④2(1)】
- ・ 大隅地域の住民がスポーツを「する」楽しみ、スポーツを「みる」楽しみの両面を享受するとともに、スポーツを「ささえる」ことで、多くの人々が共感し合うような、スポーツを通じた交流の拠点となる施設の整備に向けた取組を進めます。【P53Ⅱ④3(1)】

(3) 「食べる」「遊ぶ」「旅する」「癒やす」「治す」「維持する」・素材を生かしてつくる「おおすみウェルネス」

- ・ 大隅地域固有の食、自然、環境等多彩な魅力の掘り起こし、磨き上げを行うとともに、様々な切り口（黒の食材、「おおすみのウェルネス」等）で国内外に情報発信することで「おおすみ」のイメージアップにつなげます。【P115Ⅸ①1(1)】

※1…情報通信技術のこと。情報通信分野の機械や装置に関する技術からそれらを利活用する技術まで広い概念で使用

※2…交流人口：観光者等の一時的・短期滞在からなる人口

※ 各取組方針末尾記載の【 】内は、順に、「かごしま未来創造ビジョン中のページ」、「施策展開の基本方向の12の柱の番号」、「中項目の番号」、「小項目の番号」、「小項目の中の何番目であるか」をそれぞれ示しています。

- ・ 地域の観光資源の発掘に努め、自然や環境、「ウェルネス」をテーマとするツーリズムや農山漁村の生活体験を行うグリーン・ツーリズム※¹、ブルー・ツーリズム※²を促進します。【P117Ⅸ② 1(5)】
 - ・ 地域固有の自然、文化、歴史、伝統、食などを生かした地域づくりを促進します。【P105Ⅷ① 1(1)】
 - ・ 「かごしまブランド」、「かごしまのさかな」、「かごしま材」などの産品をはじめとする県産農林水産物について、流通、消費環境の変化に的確に対応しながら、産地の生産体制の強化を通じた生産性の向上により、販売量増大を図るとともに、品目特性に応じて、ブランド力や付加価値を高める販売対策を講じます。【P123Ⅸ③ 5(2)】
 - ・ 稼げる農業の実現に向け、ＩｏＴ、ＡＩなどを活用したスマート農業※³の普及による生産性の向上に向けた取組を推進します。【P135Ⅹ② 1(2)】
 - ・ 大消費地等におけるマーケットのニーズに的確に応えられる競争力のある産地の育成・強化、ＧＡＰ※⁴（農業生産工程管理）の取組や認証取得の拡大、地理的表示保護制度（ＧＩ）※⁵の活用を促進し、県産農林水産物の更なるブランド力向上を図ります。【P135Ⅹ② 2(1)】
- (4) 「おおすみ」を選んでもらう「暮らし」「産物」「観光」のコンテンツづくりの展開、発信
- ・ 地域の観光資源の魅力をつなぐ周遊型観光ルートの形成など、観光客の大隅とその隣接地域への周遊を促進します。【P117Ⅸ② 1(4)】
 - ・ 大隅地域を訪れる誰もが、安心・安全に快適な観光を満喫できるよう、親切で分かりやすい案内標識や公衆無線ＬＡＮ（無料Ｗｉ－Ｆｉ）※⁶等の整備促進、温かく迎え入れるホスピタリティ（心のこもったおもてなし）の向上など、受入体制の充実を図ります。【P119Ⅸ② 3(1)】
 - ・ 首都圏等における大隅の認知度向上を図るため、世間（メディア）に取り上げられるような話題づくりや工夫など、メディア目線を意識した情報発信を行うとともに、ＩＣＴを最大限活用したＰＲを展開します。【P115Ⅸ① 2(1)】
 - ・ 大隅地域固有の食、自然、環境等多彩な魅力の掘り起こし、磨き上げを行うとともに、様々な切り口（黒の食材、「おおすみのウェルネス」等）で国内外に情報発信することで大隅のイメージアップにつなげます。【P115Ⅸ① 1(1)】

※１…グリーン・ツーリズム：農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動

※２…ブルー・ツーリズム：島や沿海部の漁村に滞在し、魅力的で充実したマリンライフの体験を通じて、心と体をリフレッシュさせる余暇活動の総称

※３…スマート農業：ロボット技術やＩＣＴを活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業

※４…ＧＡＰ（農業生産工程管理）：農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動。

※５…地理的表示保護制度（ＧＩ）：地域には長年培われた伝統的な生産方法や気候・風土・土壌などの生産地の特性が、品質などの特性に結びついている産品が多く存在しており、これら産品の名称（地理的表示）を知的財産として登録し、保護する制度

※６…公衆無線ＬＡＮ（無料Ｗｉ－Ｆｉ）：無線ＬＡＮを利用したインターネットへの接続を無料で提供するサービス

※ 各取組方針末尾記載の【 】内は、順に、「かごしま未来創造ビジョン中のページ」、「施策展開の基本方向の12の柱の番号」、「中項目の番号」、「小項目の番号」、「小項目の中の何番目であるか」をそれぞれ示しています。

2 「おおすみ」の多様なひとをつなぐ、育てる、役割づくり、活躍の場づくり

- (1) 地域の課題や問題を自分のこととしてとらえ自分の役割を考え、解決する「おおすみ」の次世代育成
 - ・ 地域のニーズや資源を踏まえながら、積極的に地域活動に取り組むリーダーやコーディネーターの育成を図ります。【P112Ⅷ③ 1 (3)】
 - ・ 企業や経済界と連携するなどし、大隅地域の産業等についての理解を進め、子どもたちに、一人ひとりが大隅の担い手であるということの意識を醸成します。【P43Ⅱ① 1 (8)】
- (2) 多様な主体と緩やかな話合いからはじまる「おおすみ」のネットワークづくり
 - ・ 小学校区などの範囲において、自治会、NPO、企業、青年団、老人クラブ、子ども会など多様な主体が連携・協力して地域課題の解決等に自主的・持続的に取り組んでいくための基盤となる組織「コミュニティ・プラットフォーム※¹」づくりや、その活動の充実に向けた市町の取組を促進します。

また、このコミュニティ・プラットフォームを活用し、多様化・複雑化する福祉ニーズを住民が主体的に把握し、解決を試みることができる体制の構築を促進します。【P39Ⅰ④ 1 (1)】
 - ・ 多職種・多機関をネットワーク化し、個人や世帯が抱える複合的課題の的確な把握、支援調整の組み立て等を総合的・包括的に行う「包括的相談支援体制」の市町単位での構築を促進します。【P39Ⅰ④ 1 (2)】
 - ・ 農村集落とNPOなど地域外の多様な主体が協働で取り組む共生・協働のむらづくりを推進し、農地や農業用施設の保全などの取組を促進します。【P105Ⅷ① 1 (3)】
 - ・ 地域づくりの多様な担い手が出会い、つながり、新たな取組が生まれる場づくりを促進します。【P112Ⅷ③ 1 (2)】
- (3) 「違いを強みに」個性や能力を、懐深く、寛容な「おおすみ」で育む多様な働き方と多文化共生
 - ・ 性別や年齢などを超え、様々な立場の人々がお互いを理解し合い、支え合う、男女共同参画の視点に立った地域コミュニティづくりを推進します。【P35Ⅰ② 1 (2)】
 - ・ 働く意欲のある高齢者が、能力や経験を生かし、年齢に関わりなく働くことができる生涯現役社会を目指し、高齢者や企業等の意識啓発に取り組むとともに、多様な就労機会の提供を促進します。【P32Ⅰ① 1 (2)】
 - ・ 障害者が生きがいを持って社会参加できるよう、関係機関・団体と連携し、求人開拓や企業への啓発活動等を通じて雇用環境の整備や雇用機会の確保を促進し

※ 1…コミュニティ・プラットフォーム：市町村の区域を、小学校区などの一定の区域に分け、地域の住民代表的な組織をつくり、そこに財源や権限を移譲し、自主的な地域課題解決活動を推進していく住民自治の組織手法

※ 各取組方針末尾記載の【 】内は、順に、「かごしま未来創造ビジョン中のページ」、「施策展開の基本方向の12の柱の番号」、「中項目の番号」、「小項目の番号」、「小項目の中の何番目であるか」をそれぞれ示しています。

ます。【P37Ⅰ③1(3)】

- ・ 青少年の国際交流等を推進し、国際的な視野と先見性、コミュニケーション能力や豊かな感性を持った人材を育成します。【P47Ⅱ②1(2)】
- ・ 外国人と大隅地域の住民が共に学習するワークショップの開催、外国人による日本語スピーチコンテストの開催など、大隅地域の住民と外国人が共生する地域づくりに向けた取組を進めます。【P125Ⅸ④2(4)】

(4) 地域のミッションを明らかにして、外部の力を取り入れながら課題を解決「おおすみ」のコミュニティの形成

- ・ 小学校区などの範囲において、自治会、NPO、企業、青年団、老人クラブ、子ども会など多様な主体が連携・協力して地域課題の解決等に自主的・持続的に取り組んでいくための基盤となる組織「コミュニティ・プラットフォーム」づくりや、その活動の充実に向けた市町の取組を促進します。

また、このコミュニティ・プラットフォームを活用し、多様化・複雑化する福祉ニーズを住民が主体的に把握し、解決を試みることができる体制の構築を促進します。【P39Ⅰ④1(1)】

- ・ 地域に増えつつある空き家を、移住定住や地域の交流施設等に活用する取組を促進します。【P106Ⅷ①2(2)】
- ・ 買物弱者※¹などの地域課題や消費者ニーズに対応したサービスを提供する「地域に求められる商店街」づくりに向けて、事業者、商工団体、住民などが一体となった取組を促進します。【P106Ⅷ①1(7)】
- ・ 地域のニーズや資源を踏まえながら、積極的に地域活動に取り組むリーダーやコーディネーターの育成を図ります。【P112Ⅷ③1(3)】

3 「おおすみ」の基盤をつくる、基盤を生かす

(1) 「おおすみ」の農林水産資源の「質」、「量」、「情報発信」による高付加価値ビジネスへの転換と地域経営体の育成

- ・ 「かごしまブランド」、「かごしまのさかな」、「かごしま材」などの産品をはじめとする県産農林水産物について、流通、消費環境の変化に的確に対応しながら、産地の生産体制の強化を通じた生産性の向上により、販売量増大を図るとともに、品目特性に応じて、ブランド力や付加価値を高める販売対策を講じます。【P123Ⅸ③5(2)】
- ・ 食品の製造・加工、流通・販売段階における監視指導の充実等を図り、食品表示の適正化やHACCP※²による衛生管理の導入を促進します。また、農林水産物については、生産者のGAP取得等を促進します。【P92Ⅵ②6(1)】

※1…買物弱者：人口減少や少子高齢化等を背景とした流通機能や交通網の弱体化等の多様な理由により、日常の買物機会が十分に提供されない状況に置かれている人々

※2…HACCP：食品の製造・加工工程のあらゆる段階で発生するおそれのある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析し、その結果に基づいて、製造工程のどの段階でどのような対策を講じればより安全な製品を得ることができるかという重要管理点を定め、これを連続的に監視することにより製品の安全を確保する衛生管理の手法。

※ 各取組方針末尾記載の【 】内は、順に、「かごしま未来創造ビジョン中のページ」、「施策展開の基本方向の12の柱の番号」、「中項目の番号」、「小項目の番号」、「小項目の中の何番目であるか」をそれぞれ示しています。

- ・ 消費者・市場のニーズに的確に対応して、特産魚のブランド化を推進するとともに、付加価値の高い商品づくりのための高鮮度保持技術の開発、ＩＣＴを活用した品質向上や経営改善のためのシステム開発など産学官の連携による取組を通じて、国内外における更なる販路拡大を図ります。【P137Ⅹ② 7(3)】
 - ・ 木材の生産現場から製材工場等への直送やＩＣＴ等の技術を活用した生産・流通の合理化、加工流通施設の整備等により、需要者のニーズに対応した県産材を低コストで安定的・効率的に供給できる体制づくりを推進し、県外材等に対する競争力の強化を図ります。【P136Ⅹ② 5(3)】
 - ・ 農地中間管理事業※¹の活用による担い手への農地の集積・集約の加速化を図るとともに、耕作放棄地の発生防止・解消を促進します。【P136Ⅹ② 3(6)】
 - ・ 大規模畑地かんがい施設など農業基盤の整備により競争力強化に努め、地域農業を支える担い手の確保・育成を図ります。【P136Ⅹ② 3(7)】
- (2) 知る人ぞ知る素材や暮らし、人情を生かした「おおすみ」の観光地づくり
- ・ 観光地における環境の保全を図り、豊かな自然環境と共生する持続可能な観光地づくりを推進します。【P117Ⅸ② 1(2)】【P127Ⅸ⑤ 3(2)】
 - ・ 地域の観光資源の魅力をつなぐ周遊型観光ルートの形成など、観光客の大隅地域内各地への周遊を促進します。【P117Ⅸ② 1(4)】
 - ・ 大隅地域を訪れる誰もが、安心・安全に快適な観光を満喫できるよう、親切で分かりやすい案内標識や公衆無線ＬＡＮ（無料Ｗｉ－Ｆｉ）等の整備促進、温かく迎え入れるホスピタリティ（心のこもったおもてなし）の向上など、受入体制の充実を図ります。【P119Ⅸ② 3(1)】
 - ・ 地域の観光資源の発掘に努め、自然や環境、ウェルネスをテーマとするツーリズムや農山漁村の生活体験を行うグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムを促進します。【P117Ⅸ② 1(5)】
 - ・ 地域固有の豊かな文化資源を活用して郷土に誇りを持つ心を醸成するとともに、郷土芸能や伝統行事、史跡等の大隅の歴史・文化の保存・継承や、これらを生かした地域づくりの促進など、観光資源としての魅力向上、まちづくりへの活用等にも取り組みます。【P49Ⅱ③ 2(1)】
- (3) 「おおすみ」の命と暮らしを守り食料供給と産業を支える交通・情報ネットワークの形成と基盤整備
- ・ 地域高規格道路※²（都城志布志道路、大隅縦貫道等）の大隅地域の骨格をなす道路については、重点的に事業を推進します。【P98Ⅶ② 1(2)】

※ 1…農地中間管理事業：農地中間管理機構が、農地の所有者から農地を借受け、担い手がまとまりある形で農地を利用できるように配慮して貸付ける事業

※ 2…地域高規格道路：高規格幹線道路を補完し、地域の自立発展や地域間の連携を支える自動車専用道路又はこれと同等の規格を有する道路として指定される道路

※ 各取組方針末尾記載の【 】内は、順に、「かごしま未来創造ビジョン中のページ」、「施策展開の基本方向の12の柱の番号」、「中項目の番号」、「小項目の番号」、「小項目の中の何番目であるか」をそれぞれ示しています。

- ・ 志布志港については、国内外との物流拠点として、機能向上を図るとともに、国際バルク戦略港湾の整備を推進します。【P98Ⅶ② 2(3)】
- ・ 光ファイバ等の超高速ブロードバンド※¹や公衆無線LAN（無料W i - F i ）、第5世代移動通信システム（5 G）※²などの情報通信基盤について、国、市町及び事業者と連携しながら整備を促進します。【P95Ⅶ① 1(1)】

(4) 多様で豊かな地域資源を育み活用する持続可能な「おおすみ」づくり

- ・ 豊かな生物多様性を保全するため、大隅地域の住民の参画を得ながら、希少野生生物の保護対策、外来種対策、鳥獣の保護管理、野生鳥獣による農作物被害等の防止・軽減、豊かな森林づくり、里地里山の管理など身近な環境の保全・再生及び自然環境に配慮した公共事業の推進、漂流・漂着ごみ対策などに取り組みます。【P73Ⅴ① 1(1)】
- ・ 地域固有の豊かな文化資源を活用して郷土に誇りを持つ心を醸成するとともに、郷土芸能や伝統行事、史跡等の大隅の歴史・文化の保存・継承や、これらを生かした地域づくりの促進など、観光資源としての魅力向上、まちづくりへの活用等にも取り組みます。【P49Ⅱ③ 2(1)】
- ・ 地域課題をビジネスの手法を活用しながら解決するソーシャルビジネス※³（コミュニティビジネス）などの持続可能な取組の担い手の創出・育成等を図ります。【P112Ⅷ③ 1(1)】
- ・ 観光地における環境の保全を図り、豊かな自然環境と共生する持続可能な観光地づくりを推進します。【P117Ⅸ② 1(2)】

4 「おおすみ」で安心して暮らす、始める、働く

(1) みんなで連携・協働して創る、互いに助け合い、生き生きと暮らせる、誰もが住んでみたい「おおすみ」づくり

- ・ 中山間地域※⁴等において、将来にわたって暮らし続けることができるよう、集落の枠組みを超え、広域的に支え合う仕組みづくりを促進します。また、買物弱者支援をはじめ生活サービス機能の集約・確保等を促進します。【P106Ⅷ① 3(1)】
- ・ 地域に増えつつある空き家を、移住定住や地域の交流施設等に活用する取組を促進します。【P106Ⅷ① 2(2)】
- ・ 高齢者の身近な通いの場において、生きがい・役割づくりに資する住民主体の介護予防活動の展開・充実を図るとともに、高齢者の社会参加を促進します。【P33Ⅰ① 1(4)】

※1…超高速ブロードバンド：F T T H（光ファイバ回線）、L T E（携帯電話通信規格のひとつ）及び下り伝送速度30M b p s以上のC A T V（ケーブルテレビ）インターネット等

※2…第5世代移動通信システム（5 G）：「超高速」だけでなく、「多数接続」や「超低遅延」といった、新たな特徴を持つ次世代の無線通信システム

※3…ソーシャルビジネス：環境保護、高齢者・障害者の介護・福祉から、子育て支援、まちづくり、観光等の地域社会の課題解決に向けて、住民、N P O、企業など、様々な主体が協力しながらビジネスの手法を活用して取り組むこと。

※4…中山間地域：平野の外縁部から山間地のこと。

※ 各取組方針末尾記載の【 】内は、順に、「かごしま未来創造ビジョン中のページ」、「施策展開の基本方向の12の柱の番号」、「中項目の番号」、「小項目の番号」、「小項目の中の何番目であるか」をそれぞれ示しています。

- ・ 壮年期からの健康づくりについての推進体制の整備と普及啓発を図るとともに、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）※¹の発症・重症化予防に取り組みます。【P33Ⅰ①1(5)】
- ・ 社会全体で、妊娠・出産を温かく支える気運の醸成を図るとともに、市町とも連携し、妊産婦等を支援する取組を推進します。【P55Ⅲ①2(1)】

(2) みんなが健康を保ち、病気になっても地域で必要な医療が受けられ、安心して暮らせる「おおすみ」づくり

- ・ 地域における医療機関の自主的な取組及び医療機関や保険者等の関係者相互の協議を促進し、バランスの取れた医療機能の分化と連携を推進します。【P70Ⅳ③4(1)】
- ・ 「かかりつけ医※²」の普及・定着を推進するとともに、がんや脳卒中などの疾病について、切れ目のない医療サービスを提供する地域医療連携体制を整備します。【P70Ⅳ③5(1)】
- ・ 在宅医療と介護が一体的・継続的に提供される体制の構築を目指した取組を推進します。【P67Ⅳ②1(1)】
- ・ 認知症予防や早期診断・早期対応を推進するとともに、認知症の人と家族への支援の充実を図ります。【P33Ⅰ①3(1)】
- ・ 大隅地域の住民に対する感染症予防に関する正しい知識の普及啓発を行います。また、感染症発生時の情報の収集・提供によるまん延防止対策を実施します。【P87Ⅵ①5(4)】
- ・ 家畜伝染病等の侵入警戒対策に取り組むとともに、口蹄疫※³や高病原性鳥インフルエンザ※⁴等の発生に対応する初動防疫体制の強化を図ります。【P87Ⅵ①5(5)】

(3) 災害に強い安全な「おおすみ」づくり・どこよりも安全で安心して暮らせるコミュニティづくり

- ・ 災害発生時における道路交通の機能を確保するため、必要な道路整備を行うとともに、橋梁の耐震対策、法面の防災対策を進め、道路や港湾などの緊急輸送道路ネットワークの強化を図ります。【P85Ⅵ①2(3)】
- ・ 橋梁・トンネル・砂防ダムなどの個別施設ごとに策定する長寿命化計画に基づき予防保全対策などを計画的に実施し、長寿命化によるトータルコストの縮減、平準化を図り、公共土木施設の適切な維持管理に努めます。【P99Ⅶ②4(1)】
- ・ 河川の寄洲除去や治山施設の整備など、河川災害、土砂災害、高潮・侵食被害、農地・農業集落等における災害の未然防止対策を推進します。【P85Ⅵ①2(1)】

※1…ロコモティブシンドローム（運動器症候群）：骨、関節、筋肉、神経などの身体を支えたり、動かしたりする運動器のいずれか、若しくは複数に障害が起き、立つ、歩くといった移動機能の低下をきたした状態

※2…かかりつけ医：なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師

※3…口蹄疫：口蹄疫ウイルスが原因で、偶蹄類の家畜（牛、豚、山羊、綿羊、水牛など）や野生動物（ラクダやシカなど）がかかる病気。口蹄疫に感染すると、発熱したり、口の中や蹄の付け根などに水ぶくれができたりするなどの症状が見られる。

※4…鳥インフルエンザ：A型インフルエンザウイルスが引き起こす鳥の病気

※ 各取組方針末尾記載の【 】内は、順に、「かごしま未来創造ビジョン中のページ」、「施策展開の基本方向の12の柱の番号」、「中項目の番号」、「小項目の番号」、「小項目の中の何番目であるか」をそれぞれ示しています。

- ・ 河川や砂防、治山等のボランティアと連携して、情報の共有化と防災活動の強化に努めるとともに、市町の防災活動や住民避難が円滑に行われるよう、インターネット等を活用した、水位雨量情報や土砂災害警戒情報の提供、土砂災害警戒区域等の指定などソフト対策の充実を図ります。【P86Ⅵ① 2(7)】
 - ・ 共助による防災活動の推進の観点から、地域住民が主体となって行う自発的な防災活動に関する「地区防災計画」制度の普及啓発を図ります。【P85Ⅵ① 1(3)】
 - ・ 防災講演会や県総合防災訓練等を通じて、子どもを含む幅広い年齢層への防災知識の普及啓発及び防災意識の高揚を図ります。【P85Ⅵ① 1(1)】
 - ・ 小学校区などの範囲において、自治会、NPO、企業、青年団、老人クラブ、子ども会など多様な主体が連携・協力して地域課題の解決等に自主的・持続的に取り組んでいくための基盤となる組織「コミュニティ・プラットフォーム」づくりや、その活動の充実に向けた市町の取組を促進します。【P112Ⅷ③ 2(1)】
 - ・ 多職種・多機関をネットワーク化し、個人や世帯が抱える複合的課題の的確な把握、支援調整の組み立て等を総合的・包括的に行う「包括的相談支援体制」の市町単位での構築を促進します。【P39Ⅰ④ 1(2)】
- (4) いつでも、どこでも、誰でもスタートできる「おおすみ」のしごと、暮らし
- ・ 地域に増えつつある空き家を、移住定住や地域の交流施設等に活用する取組を促進します。【P106Ⅷ① 2(2)】
 - ・ 中山間地域等において、将来にわたって暮らし続けることができるよう、集落の枠組みを超え、広域的に支え合う仕組みづくりを促進します。また、買物弱者支援をはじめ生活サービス機能の集約・確保等を促進します。【P106Ⅷ① 3(1)】
 - ・ 地域課題をビジネスの手法を活用しながら解決するソーシャルビジネス（コミュニティビジネス）などの持続可能な取組の担い手の創出・育成等を図ります。【P112Ⅷ③ 1(1)】
 - ・ 起業に関する気運の醸成や初期投資に対する負担の軽減を図るとともに、県内外のビジネスパートナーとのマッチングの機会を創出すること等により、若者や女性、県外からのUIターン者等の起業を促進します。【P131Ⅹ① 2(1)】
 - ・ 農業労働力の不足に対応するため、県農業労働力支援センターと連携し、情報提供を行うなど労働力の確保を図ります。【P147Ⅺ③ 3(4)】
 - ・ 森林・林業に関する魅力の発信に努めるとともに、就業相談窓口の設置や基礎的な技能講習、能力に応じた段階的な技能実習等により、新規就業者や現場技能者の確保・育成を図ります。【P147Ⅺ③ 3(6)】
 - ・ 意欲と能力のある中核的な漁業者の育成など後継者対策を推進し、大隅地域の水産業を支える担い手の確保を図ります。【P147Ⅺ 3 ③(9)】

※ 各取組方針末尾記載の【 】内は、順に、「かごしま未来創造ビジョン中のページ」、「施策展開の基本方向の12の柱の番号」、「中項目の番号」、「小項目の番号」、「小項目の中の何番目であるか」をそれぞれ示しています。

第4章 大隅地域の取組方針実現のために

1 地域の皆様が主役

地域振興の主役は地域の皆様方です。

このため、地域の県政情報を分かりやすく提供できる広報活動等に努めるとともに、様々な会議の場や行政分野ごとの県政セミナーなどを活用しながら、地域の皆様の意向を十分把握し、各般の施策・事業に取り組みます。

2 多様な主体との連携・協働

この取組方針を実現するためには、地域の皆様をはじめ、企業、関係団体、大学、NPOなどの多様な主体が、地域の目指す姿や進むべき方向性を共有し、様々な課題に主体的に取り組んでいくことが重要です。

課題の解決に当たっては、多様な主体が「自助」、「共助」、「公助」を適切に組み合わせ、連携・協働を図りながら、進めていきます。

3 市町との連携

行政課題の解決に当たっては、住民に最も身近な基礎自治体である市町との適切な役割分担の下、連携を図りながら進めていきます。

4 県域を越えた連携

観光や大規模災害など県域を越える広域的な課題に適切に対応するため、県際間の連携を更に推進します。

5 具体的な施策・事業の推進

この取組方針を踏まえて実施する施策・事業等については、各分野の事業計画等において具体化し、PDCA※¹サイクルを実施することなどにより、適切な管理等を行います。

※1…PDCA：PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法。